

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしさとは何か、その人のありのままの言動を尊重し、その人のしたいことの実現に向け日々努力している。	事業所独自の理念があり、職員が常に立ち戻る基本的な指針となっている。職員は日々のサービス提供場面においてふり返り実践につなげている。また、玄関や居間に理念を掲げ、来訪者等に事業所の目指す方向を周知している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	公民館の催しや小中学校の行事などに招待頂き参加させてもらっている。祭りの日は獅子舞も寄ってくれる。	飼い犬つながりでご近所の飼い主さんと犬の散歩の途中で行き交い親しくなり、漬物持参でお茶に立ち寄られたり、季節の野菜などのおすそ分けをいただくこともある。地区役員の方にも気軽に来訪していただくなど、地域との交流が日常的に行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症高齢者を抱える家族からの相談など随時受けている。中学校の福祉体験の事前学習として学校へ出向き認知症の人の理解を深めてもらえるよう話をさせてもらった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者家族からの要望を速やかに全体で話し合い要望にこたえる努力をしている。	運営推進会議は入居者家族、地域代表、民生・児童委員、地域包括支援センター職員、消防署員などの参加のもと、平日の日中に行なわれている。ホームの現状報告、季節の行事などの説明やケアの実情について話し合わせ、2ヶ月から3ヶ月ごとに行われている。家族会が同日に行われることもあり、意見や要望等は事業所運営に活かされている。	運営推進会議も年々開催回数や内容面で充実してきている。理念にある「地域社会とのつながり・住み慣れた地域で暮らし続けるための架け橋」を更に具現化するためにも実状に合わせての回数増を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に行われる町の事業所会議に参加しており現状の報告をし協力関係が築けるよう努力している。	町内の約30にのぼるボランティア団体で構成している「福祉を考える会」にホーム長や計画作成担当者が参加している。介護認定の更新に調査員が来訪したり、定期的に行われる事業所会議にも出席している。町担当者がホームに来た時に色々な情報を伺うなど、連携をとっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は日中開錠し自由に入出入り出来るようにしてあり身体拘束をしないよう心がけている。	職員は研修や勉強会を通し身体拘束による弊害を理解し、拘束のないケアを実践している。玄関の施錠はされていない。場面場面で本人の意にそって対応し、入居者の行動を制限しないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場会議などで虐待について学習し虐待が見過ごされることのないよう注意をはらっている。		

グループホームコスモス松川・1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修参加にて学習した内容を職場会議にて報告し共有している。又実際に困ったときは直接後見人の方と連絡をとり対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約の際は十分に話し合いを行い理解を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際出来るだけ話をして些細な意見も参考にするよう心かけている。	基本的には家族に月の利用料を届けていただき、意向や要望等もその機会に言っていただけるよう働きかけている。また、毎月の家族宛のお便りには本人の写真やコメントをつけて配布しており、入居者の暮らしが垣間見え非常に喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のミーティングを重ね統一して何かを決める際には職場会議にて方向性を出し業務につなげる努力をしている。	毎月職員会議が月始めに開かれ、全体会議の後、1・2階に別れケアプランの見直しや介護の現状についての話し合いが持たれている。職員からの意見やアイデアは運営に活かされている。日々の朝礼時や会議において管理者と職員の意思疎通が図られており、厚い信頼関係が築かれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員それぞれの希望を考慮しながらやりがいを持って働けることができるよう条件の整備につとめている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	多くの職員が法人内外の研修を受けることが出来るよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	飯伊地区のGH会に参加したり町内のGHに出かけ交流することができた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今までの生活ぶりをよく伺って参考にしながら安心して生活してもらえるよう関わっている。入居前に通所利用をしてもらって職員との関係作りを行ってからの入居という方法もとっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の今までの介護の様子などもよく伺ってお互いに協力しあう関係を築きたいという気持ちで接している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	もともと夫と2人暮らしの方のケースでは夫が入所している施設への面会を頻回に行いお父さんは大丈夫という安心感を持ってもらい希望すればいつでも自宅への外出も可能である対応を重ねている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	1人1人の強みを見極め台所や買い物洗たくなど生活場面に生かしていけるよう援助している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の様子をよくお伝えするようにして信頼関係が築けるよう接している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	民生委員さんが主催する地元のサロンに出かけたりと交流を続けている。	入居者の書道教室の仲間や家族の仕事仲間の訪問がある。本人を支えたり、本人が支えてきた人間関係を職員は把握し、お盆や年末には帰省の機会を設け支援している。地域サロン「歩み会」に定期的に参加し、顔なじみの方とのふれあいを楽しみにしている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格をよく観察し利用者同士の関係作りを支援し仲良く生活出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族からの相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り本人の意向に沿える様努力している。言語能力が低下している方に対してもきつとこんな思いではないかと思いはせ本人の反応と重ねつつ日々対応している。	職員は入居者の気持ちを汲み取り、ミーティング等で共通認識している。思いを伝えることができる入居者であっても聞き逃しのないよう日々留意している。意思表示が難しかったり、思いを伝えることができない入居者については日々の様子やしぐさなどから、本人本位に日々検討し、支援に当たっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族だけでなく今までのサービス提供事業所からも情報を頂くなどして今までの生活の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の様子いつもと違う言動など詳しく個人記録に記入し情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎朝のミーティングや会議にて話し合い作成し日々のケアに生かしている。家人との連絡を密にし意向に沿うものとなる様努力している。	入居者や家族の意向を踏まえ介護計画を作成している。定期的な見直しのほかに、職員は入居者の日々の状態を把握し、変化が見られた時には随時、計画を変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録、業務日誌、連絡帳などを活用し情報の共有をはかり実践にいかしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通所サービスの利用はもちろんできる限り要望に応えられるよう努力している。		

グループホームコスモス松川・1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの商店街での買い物や犬の散歩に出かけることで楽しい時間が持っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当法人の医師や協力病院の医師による適切な医療の提供ができています。	2週間に1回医師の往診があり、健康管理は適切に行われている。かかりつけ医への定期受診は家族が入居者の状態を把握する大切な機会でもあるため、原則的には家族同行でお願いしている。緊急の場合や家族の同伴が難しい時には職員が臨機応変に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師を中心にして病状の把握を行い受診や看護につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も時々見舞い本人の様子をみたり病院関係者との治療の見通しや退院後の生活についての相談を行うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態によっては入所時に重度化対応同意書を交わしている。変化にあわせその都度相談しながら支援している。	法人としての「重度化した場合における対応に係る指針」があり、入居時に説明がされている。ホームではこの一年間にお一人の方の看取りを行なった。その際にはホームの協力医や家族と連携をとりながら対応した。他の入居者にも自然な流れとして事実を話し、職員とともに合唱しお見送りをしたという。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事例の検討を含め職場会議や日々のミーティングにおいて非常時の対応を各自が意識付けするようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度は消防署のかたを招いてGHに設置されている非常通報装置の作動手順の確認や防災の講話をお聞きした。また地元の消防団の団長さんにもGHを見学してもらい入居者の様子施設の構造を把握してもらっている。	非常時に際し通報装置、スプリンクラーの設備が整っている。近くに同じ法人が運営する、小規模多機能型居宅介護事業所、デイサービスがあり、緊急時の連携体制ができています。毎年実施される地元地区の自主防災訓練に職員が参加している。	今後、様々な災害を想定し、入居者の状況に応じた避難や誘導ができるよう、年間計画を立て訓練を実施されるよう望みます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に排泄の介助時にプライバシーを傷つけないよう配慮している。言葉がけにも十分注意して対応している。	呼びかけは、苗字に「さん」をつけて呼んでいる。職員は理念にある通り一人ひとりを尊重し、その人らしい尊厳ある姿を大切に言葉がけや対応に配慮されていた。また、職員は入居者の生活歴や性格を理解の上、本人本位のサービスを提供している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望が言いやすいような関係作りに努めている。せかさず返事を待つように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団ではなく居室で1人こもって読書したりといった時間を大切にしている。入院中の夫の面会に頻回に行くといった援助にも力をいれている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	たんすの奥に大切にに入れてあったり家人が持参してくれた服と一緒に選び季節に合ったものを着て頂く。髪や髭をきちんと整え気持ちよく生活出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	何がたべたいかを聞きなるべく意向に沿うようにしている。五平もちの味付けなどもお願ひし皆で作り一緒に楽しく食事するように心がけている。	食事の支度は入居者と職員で得意分野を受け持ち、和やかな会話を交わしながら行なわれていた。職員も入居者と一緒のテーブルで食べ、料理の味付けや好みについて意見を聞きながら、献立の見直しに役立っている。おかゆやキザミなど入居者の方に合わせた食形態で提供されている。ホームの建物の空きスペースで作ったトマトやほうれん草などが食卓に上ることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランス良く栄養や水分が取れるよう心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	誤嚥性肺炎の予防も考えて取り組んでいる。		

グループホームコスモス松川・1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の訴えのある方にはすぐに対応する。訴えがなくても時間をみてトイレ誘導し支援している。	自立の方、リハビリパンツの方、パットのみ使用の方と多様であるが、職員は入居者の排泄パターンを把握しており、家族の要望を尊重しながら対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く使った献立の工夫や水分を十分にとれるような色々な飲み物を提供し便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	拒否がある方は無理に誘わず翌日に入ってもら。声かけの仕方やタイミングに気をくばる。入浴剤をいれて温まっていたく。	入浴は入居者の体調や希望に合わせて、また一人ひとりの気持ちや生活習慣に沿って支援している。入浴方法や回数等臨機応変に対処している。重度化に伴い、リフト対応が必要な場合には同じ法人の運営する他事業所での入浴も可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は休みたい時に休んで頂いている。季節に応じてエアコンを使用し希望時は電気毛布を使用する方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から発行される各個人の内服薬の効能等の情報をきちんと把握し確認しながら支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理、裁縫、畑仕事など生活歴を大切にその方の力を引き出し生きがいを得られるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	商店街へ出かけたり、地域の行事への参加など、出来るだけ外出の機会を作るようにしている。季節ごとの花を見に時期になると計画し外出している。	ホームの回りは閑静な住宅地であり、商店街も近いことから犬を連れての散歩や買い物に適した場所となっている。また、ホームの玄関先でお茶を飲んだり、歌を歌ったりと、外気にふれる工夫もされている。気分転換に同じ法人運営の小規模多機能居宅介護事業所の車を使い、少人数で、桜や藤、りんごの花見などに出掛けている。	

グループホームコスモス松川・1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布が手元に無いと不安を感じる方に関しては家人と相談の上、所持する額を決め財布を所持してもらっている。個人にとって必要なものに関してはなるべく一緒に買い物に行くようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家人から荷物が届いたときには本人にも電話口に出てもらいお互いの近況を話す機会としている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	時期の花を飾ったり、季節に合った手作りの飾り物を一緒に作ったりしている。明るく落ち着いた環境作りに努めている。	広いスペースのとられた居間は大きな窓ガラスをカーテンなどで締め切ることなく解放的で、明るい雰囲気を感じさせてくれる。トイレも3ヶ所、風呂場も広く、快適な生活ができるように配置されている。壁には地元中学生の訪問時に書かれた絵や入居者の俳句の短冊が飾られていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	こたつでくつろげる居場所を作ったり玄関にもイスを置き数人が集えるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	可能な限り使い慣れたものを持ち込んで頂き居心地良く過ごせるよう考えている。	居室には、お孫さんから頂いたぬいぐるみや入居者の作品、写真等が飾られ、一人ひとりがその人らしく過ごせるよう配慮されていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分のことは自分で行えているという気持ちで過ごして頂くよう、さりげなく介助するという心を心がけている。		